

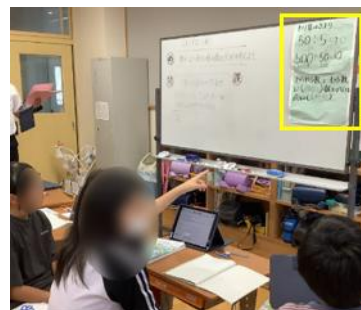
I 育成を目指す資質・能力を明確にした単元構想

単元計画や既習事項の可視化・共有

子どもの姿
見通しをもって
主体的に学ぶ姿

「小数のわり算」 学習計画

日	学習内容	学習目標
1	わり算の学習するところ。	
2	2人5人などわり算の考えを学ぶ。	
3	わり算の考えをまとめる。	
4	わり算の考えをまとめる。	
5	わり算の考えをまとめる。	
6	わり算の考えをまとめる。	
7	わり算の考えをまとめる。	
8	わり算の考えをまとめる。	
9	わり算の考えをまとめる。	
10	わり算の考えをまとめる。	
11	わり算の考えをまとめる。	
12	わり算の考えをまとめる。	



板書に掲示した既習事項を指さしながら、友達と課題解決をしている。

学びのさらなる充実に向けて

バックワードデザイン

目指す子どもの姿
単元のゴールを意識し、学びのつながりを捉える姿

単元目標から逆算した授業設計と各時間に主に育成を目指す資質・能力の焦点化
単元のゴールを児童と共有するとともに、「この時間で何を身に付けさせるのか」を明確にした上で、毎時間のめあてや課題を設定し、単元のゴールとのつながりを児童が意識できるようにする。

II 必然性のある「対話」と学びを実感できる「振り返り」

ペア・グループ活動の意図的な設定

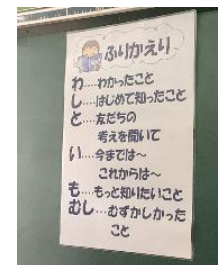
子どもの姿
・主体的に対話し、自分の考えを伝える姿
・学習を振り返り、自らの学びを確かめる姿



頭を寄せ合って互いの考えを確かめたり、具体物进行操作しながら考えを共有したりしている。



振り返りの視点の共有



学びのさらなる充実に向けて

双方向の対話・学習過程の振り返り

目指す子どもの姿
・対話を通して新たな考えや気づきを得る姿
・学びの変容を実感し、次の学びにつなげる姿

思考を促す発問の工夫

「そう考えた理由は何か」
「友達の考えを聞いて自分の考えはどう変わったか」
「それぞれの考えを組み合わせると、どんな考えになるか」など、
思考の比較・関連付け・再構築を促す問いを意図的に設定する。

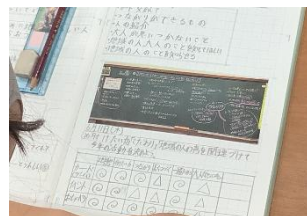
「振り返りの視点」の充実

「授業前と比べて考え方がどのように変わったか」
「どのような学習活動や友達との対話が学びにつながったか」など、
学習の過程や認知の変容、今後の見通しに目を向ける振り返りの視点を充実させる。

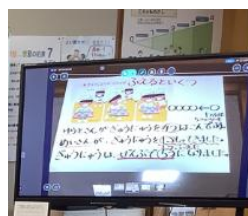
IV 全ての授業で、誰一人取り残さないよう手立てを講じる

個に応じた指導の充実と学習環境の工夫

子どもの姿
一人一人が安心して学習に参加する姿



板書写真をノートに貼り、学習の積み重ねを可視化し、学びのつながりを意識できるようにしている。



教室掲示の一部分(該当箇所)を電子黒板で拡大表示。

学びのさらなる充実に向けて

「分からない」を大切に授業

目指す子どもの姿
分からないことを表現しながら、学び続ける姿

自分に合った学び方を選ぶ場の設定と子ども同士で学び合う場の充実

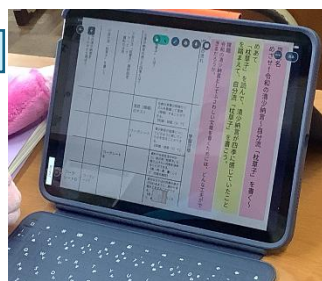
「分からない」と表出することを学びの価値として認めるとともに、ユニバーサルデザインの視点をいかして誰もが学習に参加しやすい環境を整え、**自分に合った学び方を選ぶ場の設定や、児童同士が互いの考えやつまづきを共有しながら学び合う場**を充実させる。

Ⅰ 育成を目指す資質・能力を明確にした単元構想

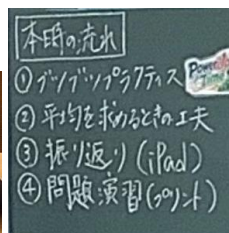
単元計画や本時の流れの可視化・共有

子どもの姿

学習の見通しをもち、課題に取り組む姿



単元計画(評価の観点を含む)をタブレットで生徒と共有している。



学びのさらなる充実に向けて

思考を促す課題・自己決定の場

目指す子どもの姿

課題を自分事として捉え、主体的に学ぶ姿

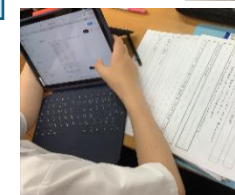
生徒が「考えなくなる」課題設定と自己決定の場の充実

生徒の疑問や気づき、日常生活や社会とのつながりを意識した課題を設定するとともに、追究する内容や学習の進め方を選択できる場を設ける。

Ⅱ 必然性のある「対話」と学びを実感できる「振り返り」

ペア・グループ活動の意図的な設定

⇒自分の作曲の工夫点を伝え、お互いの曲の感想を伝え合う様子。



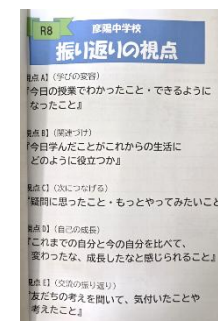
⇒自分の俳句について、AIとの対話を通して得た気づきや深めた考えを、友達や先生との対話につなげている。

子どもの姿

・主体的に対話し、自分の考えを伝える姿

・学習を振り返り、自らの学びを確かめる姿

振り返りの視点の共有



学びのさらなる充実に向けて

必然性のある対話・学習過程の振り返り

目指す子どもの姿

・根拠を基に対話し、新たな考えや気づきを得る姿

・学びの変容を実感し、次の学びにつなげる姿

対話しないと解決できない課題設定

「友達の考えのどこに納得したか」「どの根拠が最も説得力があるか」「複数の考えを比較すると何が見えてくるか」など、他者との対話を通して考えを深める必要のある課題を設定する。

「振り返りの視点」の充実

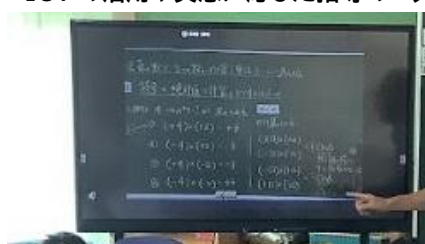
「授業前と比べて考え方がどのように変わったか」「どのような学習活動や友達との対話が学びにつながったか」など、学習の過程や認知の変容、今後の見通しに目を向ける振り返りの視点を充実させる。

Ⅳ 全ての授業で、誰一人取り残さないよう手立てを講じる

ICTの活用や実態に応じた指導の工夫

子どもの姿

落ち着いて学習に向かう姿



導入場面で既習事項を全体で確認することで、全ての生徒が本時の学習に参加しやすい環境を整えている。

学びのさらなる充実に向けて

「分からない」を大切に授業

目指す子どもの姿

分からないことを表現しながら、学び続ける姿

自分に合った学び方を選ぶ場の設定と子ども同士で学び合う場の充実

「分からない」と表出することを学びの価値として認めるとともに、ユニバーサルデザインの視点をいかして誰もが学習に参加しやすい環境を整え、自分に合った学び方を選ぶ場の設定や、生徒同士が互いの考えやつまづきを共有しながら学び合う場を充実させる。